

百 医 争 鳴



仕事の両立の悩みという経験は、患者さんに対応するうえでも強みになることは間違いありません。自分の経験や育児経験は、医師以外でも、経営者としてのスタッフ

に対するマネジメントにも活かされていると思います。島田 近年、乳がんの患者さんも30〜40代の方が増えていて、子育て世代も多いです。自分が子どもを持つているからこそ、そうした患者さんの背景を理解し共感することが出来ます。坂根 一般には、開業を志す女性医師たちへのメッセージをお聞かせください。島田 勤務医時代からピントクリボンの活動に携わっていましたが、当時は何か問題を感じていても、「国立病院に勤務する医長や、利益追求を要求する医療法人の副院長」という立場では、活動の規制もあ

り自由に活動できませんでしたが、だから開業後、自分が責任のある立場になって初めて、ピントクリボン運動のような社会活動ならではの、自分の理想とする医療理念の実現も含め、可能となりました。女性には男性に比べて、何らかの団体の重要なポストに就かなければならないといったプレッシャーが比較的少ないので、自分の気持ちに正直に動くのが最大の強み。もし、医療界で実現したい大きな志があるのであれば、開業医という立場は非常に柔軟性があり小回りも利くので、チャレンジしやすいかと思えます。坂根 現在の医師関連団体のトップはほとんどが男性で、彼らほど

うしても立場上、自由に自分の意見を発信することができません。その点、争いというところはありますが、女医はそのようなポジションに就いていない方が多いので、自由に意見を言えます。ただ、自由に発言するだけではなく、医師制度を決定する重要な場にもっと女医が進出して議論が活発になれば、医療界全体が良い方向に変化していくのではないかと期待しています。私や島田先生が現在のような活動が可能なのは、二人とも開業医というフリーな立場だからこそなので、私たちが一緒に活動してくれるプラットフォームの軽い女性の開業医が増えてくれるとうれしいですね。

子育てでもフルタイムで、第一線で働くような勤務体系は、自主医感を残したグループ診療制による交代シフト勤務が理想的と考えています。そして、島田先生がおっしゃられた日本の医師制度の問題点については私も同意で、こうした法律を決める場に女性の目線が全くないことが問題です。家庭を持つ女医は、仕事を辞めても家に帰れば家事が待っている場合がほとんど。そんな環境で、開業医だから、24時間かかりつけ医を実行しろといってもそれは到底不可能です。また、男性医師の労働環境の改善も重要。女医のパートナーの7割は医師という現状では、いくら女医の選択が広がってパートナーである男性医師が帰ってこなければ結局、物理的に女医が一人で育児をこなすを得なくなり、本来転倒です。質の良い医師の提供には、医師が健康な状態で働ける環境が大前提なのに、過労死寸前で働いているような実状があります。それには目をつぶって、医療事故が起これば、起きてしまった事故のみを、法律関係者やメディアが激しく責め立てる。私は、日本

医療法人協会現場からの医療事務部長を務めていますが、その背景にはこのような問題を解決したいという思いがあったからです。男性・女性にかかわらず医師の労働環境が改善できれば、女医が活動できるフィールドも必ず広がることを信じています。島田 夜勤の次の日が休めないというのは、ほかの業種では考えられないことですよね。医師行為には危険が伴うのに、「寝ないで仕事しろ」と要求されるような考え方もあまり通っていない。このような状況では、同僚の男性医師にも心身の余裕がありませんから、出産直前まで普通にフルタイムで働いて、いよいよ出産で休むというときに、「いね、休め」と、男性医師から辛気で言われるんです。一緒に働く男性医師も辛気に余裕をもたせて働けるようにならないと、女医も安心して妊娠出産をすることができません。勤務環境を改善して、医師が長く健康に働ける状態をつくる必要があります。医療スタッフに無理や我慢を強い続けると結局、医療事故の減少にはつながらないし、サービスを受

ける患者側にもメリットがなくなるでしょう。多忙日々を乗り切るために心がけていることがあります。坂根 当院は内科なので、症状も多岐にわたり、患者さんの訴えも幅広い。これに対応するには、自分がベストコンディションを保つことが不可欠です。私のリフレッシュ法は、朝風呂とシエスタ（昼寝）ですね。出勤前に必ず、お風呂に数分間でも入ります。低血圧なので血行の循環を良くして、忙しい朝のイライラしな気分を切り替えるためです。そして、当院の隣が自宅なので、昼休みに10〜15分間、椅子やソファで昼寝。当院がある茨城県は医師の充足率が非常に低いので、患者数も多く、午前7時半から12時までの診療中は海沿いのごく通りすがりのように、しゃべり続けて通話の方がよくなってしまふ(笑)。この経験で、午後の診療における集中力がまったく違つてきます。

島田 医療機関なので、患者さんにつらい検査結果を伝えなければならぬといったネガティブな出来事も多くあります。だからといって、十分な時間を確保して自分の趣味を楽しむというスタイルを築いていくことはなかなかできないので、日々の高燃な出来事に喜びを見いだすようにしています。いつもなら3日くらいで枯れてしまうお花がずっと長持ちしたとか(笑)。このような小さな出来事を幸せに感じて喜ぶことで、心まに気分転換しています。――日々の診療や経営を行うなかで、母であるこのメリットを感じることがあります。坂根 子育ての経験は、医療を行ううえで確実にプラスになるでしょう。子育てに限らず、介護の経験があれば介護の苦しみ、大変さ、結婚しては夫婦関係の難しさの経験なども役に立ちます。もちろん、そうした大変さを想像することも可能ですが、自分が経験しているからこそ、患者さんの訴えや悩みに共感できます。そういう意味では、女性しか経験できない経験・出来、それに伴う家庭と

業界最先端の酸素カプセル

O₂ Capsule

酸素カプセルの期待できるポイント!

- 眼精疲労
- 肩こり・腰痛の改善
- 睡眠不足・疲労回復
- 受験時のお子様に

O₂ BOX

1~30人用酸素ボックス

歯科医院設備例

酸素カプセル 国産メーカー

株式会社 タイムワールド

03-5547-8883

東京都中央区八重洲 1-7-17
八重洲ロータリービル 7F
http://www.o2-capsule.com